

国立清水海上技術短期大学校 ～学生を対象とした船種別勉強会開催・教員との意見交換会実施～

日本船主協会では、優秀な日本人海技者確保のための広報活動を展開しております。当協会は、2021年以降取りやめていた海技教育機構傘下各校での勉強会を再開しました。その第1弾として、国立清水海上技術短期大学校（静岡県）を訪問し、船種別勉強会および同校教員との意見交換会を開催しました。

当勉強会は、労政幹事会「内航ワーキンググループ（WG）」のメンバーが中心となり、海技教育機構の学校の学生や教員を対象に、内航海運の現状や運航及び荷役の実務等について講演を行い、生徒指導や学習に資することを主な目的としています。

7回目の開催となった今回は、内航WG座長会社の日本マリンの他、三洋海運、大光船舶、太平洋沿海汽船、イースタンマリンシステム、日本海洋事業および栗林商船が国立清水海上技術短期大学校を訪問しました。

学生対象の勉強会では、各社が運航するRo-Ro船、石灰石専用船、ケミカルタンカー、LNGバンカリング船、セメント船および海洋調査船について船体説明や荷役等について、実体験を交えながら講演を行いました。講演後、学生からは「MO船導入のメリット」や「セメント船が一度に運べる貨物量」等といった質問が挙がり、講師がそれに対応しました。

教員と意見交換会では、清水校学生におけるコロナ禍前後の学生の性格、入学時の乗船希望船、女子学生等について、意見交換を行いました。

当勉強会は、コロナ禍後初めて海技教育機構傘下の学校を直接訪問し、学生や教員の様子を直接見る貴重な機会となりました。当協会は優秀な日本人海技者確保に向け、今後も関連機関と協力して幅広い活動を継続していきます。



講演をする内航WG座長会社の中倉氏



勉強会の模様



意見交換会の模様